



# 手紙

11月13日

Sudden Fiction Project

高階經啓  
hirotakashina

## 11月13日のおはなし「手紙」

---

今日は嬉しいことがありました。武術の検定に於いて二階級進むことができました。これで私は回旋系の技術と、打撃系の技術に於いて、現時点で到達しうる最高位に達しました。関節系や絞め技をはじめとする接触系の技術も、徐々にすべきことが見えてきました。すでに同期の入隊者の中では私にかなう者はありません。

けれどもそのことに慢心することなく（卒業生にはもちろん、下級生にも恐るべき俊英がいると聞いております）、さらに技に磨きをかけ、真の格闘技の覇者が誰なのか、文句なしに認められる立場まで上りつめようと考えています。来週から始まる大会がその第一歩です。

私はここに来て十一年になります。試験入隊したのはわずか七歳の時のことでした。幼少の頃から、格闘技に大変関心が高く（喧嘩っ早かっただけだという表現もできますが）、故郷の大人たちにそれを認められ（見とがめられという表現もできますが）、猛獣たちの巣窟として知られるこの武芸院幼年隊にやってきました。最初はまさに右も左もわからず、それまでに身につけた技はことごとく否定され、それまでに覚えた知識の底の浅さを露呈させられ、より深くより実用的な知識と手技を体得してきました。

いま思えば何が悲しかったのか、入隊間もない頃の私は夜毎ベッドで泣いていました。見回りの五年上級の先輩見つかってはよく叱られたものですが、ある夜、私に声をかけてきた先輩は、怒鳴ることもなく叱声すら飛ばさず、ただ私に得意な各闘技を尋ねました。顔を見ると模範演技や後輩の指導員として道場でよく見かける先輩でした。

私が一対一の組み手なら誰にも負けないと言うと、先輩は大きくうなずき、ならばクッキーの話は知っているかと尋ねました。知らないと言うと、武術で他を圧することができたなら、決して驕ることなく知力も鍛えるがいいと指針を与えてくれました。そうすれば、と微笑んだ先輩の顔を私は忘れることができません。そうすれば、将軍様のおいしいクッキーを手ずから受け取る日も近いだろうと話してくれました。

以来、あなたのことを考えるとき、私はあの夜、一度会話を交わしたきりのあの先輩のことを思い浮かべるのです。慈愛に満ち、よく聞く耳を持ち、的確な指導をし、得意領域をすばやく高め、苦手領域の克服すら喜ばしいことに変えてしまう。

こんなことを書いていいのかわかりませんが、私は手紙を書いているとき、あなたをととも近くに感じることができます。私が書く他愛もないことにうんうんとうなずいてくださる様子が感じられます。だからお返事などなくてもちっとも構わないのです。

しかしながら、昨日、同じ階の私より後からここにやってきた者が、あなたからのお手紙を受け取ったと話しているのを聞きました。以来、一抹の淋しさを感じることをどうすることもできません。あなたから手紙を受け取りたい。そう願うことは許されないことなのでしょうか？

私はいま、すべての学科に於いて同期の頂点に立っています。来週からの大会で、武術に於いても頂点に位置していることを示せるでしょう。望むらくは同期に限らず、武芸院全隊における覇者になるべく邁進します。私は最重要任務の一つと考え、必ずやその目標を達することでしょう。

\*            \*            \*

その手紙が、私がつけた最後の日記だった。私はその大会に於いて見事覇者になることができた。そして最優秀の成績で武芸院を卒院し、最重要任務を拝命する部署に配属された。

明日、私たちの部隊が隣国に対して仕掛ける作戦は、いままでの演習とは異なるものだという

ことは、私にもわかる。恐らくそれは留保なしの戦争に至るであろうことも。私はその作戦をまっとうするために確信が欲しい。いま贅沢を一つだけ許されるなら、あの頃のように手紙を書きたい。書くのはただ一行。

親愛なる指導者、私にはまだおいしいクッキーが届きません。

(「親愛なる指導者」 ordered by エルスケン-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそこのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんが、すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ほくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 手紙

<http://p.booklog.jp/book/38861>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38861>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38861>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.